

神凜名川耳天皇 神日本磐余彥天皇第三子也 母曰媛蹈備五十鈴媛命 事代主神之次女也

(BC582年11月)

天皇風姿岐嶷 少有雄拔之氣 及壯容貌魁偉 武藝過人而志尚沈毅 至卅十八歲 神日本磐余彥天皇崩

時神凜名川耳尊 孝性純深 悲慕無已 特留心於喪葬之事焉

其庶兄手石耳命 行年已長 久歷朝機 故亦委事而親之 然其王立操履昔懷 本乖仁義 遂以諒闇之際 威福自由 苞藏禍心 圖害二弟 于時也太歲己卯冬十一月 神凜名川耳尊 與兄神八井耳命 陰知其志 而善防之 至於山陵事畢 乃使弓部稚彥造弓 倭鍛部天津真浦造真鹿弭鏃 矢部作箭 及弓矢既成

神凜名川耳尊 欲以射殺手石耳命 會有手石耳命於片丘大穴中 獨臥于大牀

時神凜名川耳尊 謂神八井耳命曰 今適其時也 夫言貴密 事宜慎 故我之陰謀 本無預者 今日之事 唯吾與爾自行之耳 吾當先開穴中戶 爾其射之 因相隨進入 神凜名川耳尊 突開其戶 神八井耳命 則手脚戰慄 不能放矢

時神凜名川耳尊 擊取其兄所持弓矢 而射手石耳命 一發中胸 再發中背 遂殺之

於是 神八井耳命 慙然自服 讓於神凜名川耳尊曰

吾是乃兄 而懦弱不能致果 今汝特挺神武 自誅元惡 宜哉乎 汝之光臨天位 以承皇祖之業 吾當為汝輔之 奉典神祇者 是即多臣之始祖也

(BC581.01.08)

元年春正月壬申朔己卯 神凜名川耳尊 即天皇位 都葛城 是謂高丘宮 尊皇后曰皇太后 是年也 太歲庚辰

(BC580.01)

二年春正月 立五十鈴依媛為皇后 [一書云 磯城縣主女川派媛 一書云 春日縣主大日諸女糸織媛也] 即天皇之姨也 后生磯城津彥玉手看天皇

(BC578.04.)

四年夏四月 神八井耳命薨 即葬于畝傍山北

(BC557.01.07)

廿五年春正月壬午朔戊子 立皇子磯城津彥玉手看尊 為皇太子

(BC549.05)

卅三年夏五月 天皇不豫 癸酉 崩 時年八十四

卷4 磯城津彦玉手看天皇 安寧天皇

磯城津彦玉手看天皇 神淳名川耳天皇太子也 母曰五十鈴依媛命 事代主神之少女也 天皇以神淳名川耳天皇廿五年 立為皇太子 年廿一

(BC549.05)

卅三年夏五月 神淳名川耳天皇崩

(BC549.07.03)

其年七月癸亥朔乙丑 太子即天皇位

(BC548.10.11)

元年冬十月丙戌朔丙申 葬神淳名川耳天皇於倭桃花鳥田丘上陵 尊皇后曰 皇太后 是年也 太歲癸丑

(BC547 年)

二年 遷都於片鹽 是謂浮孔宮

(BC546.03.05)

三年春正月戊寅朔壬午 立淳名底仲媛命 [亦曰 淳名襲媛] 為皇太后 [一書云 磯城縣主葉江女川津媛 一書云 大間宿禰女 糸井媛]

先是 后生二皇子 第一曰息石耳命 第二曰大日本彥耜友天皇 [一云 生三皇子 第一曰常津彥某兄 第二曰大日本彥耜友天皇 第三曰磯城津彥命]

(BC538.01)

十一年春正月壬戌朔 立大日本彥耜友尊 為皇太子也 弟 磯城津彥命 是猪使連之始祖也

(BC511.12.06)

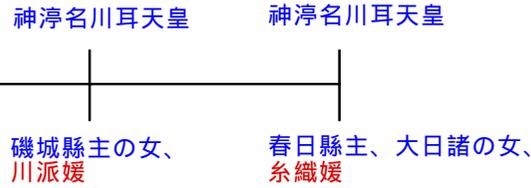
卅八年冬十二月庚戌朔乙卯 天皇崩 時年五十七

神淳名川耳天皇 書紀の系図 本文



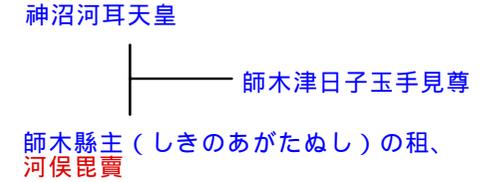
高丘宮
大和志に葛上郡森脇村（奈良県御所市森脇）
高鴨神社を上鴨社、御歳神社を中鴨社、鴨都波神社を下鴨社と呼ぶようになった、
ともに鴨一族の神社
高尾張邑が葛城邑と改名
劔根一葛城國造

神淳名川耳天皇 書紀の系図 一書

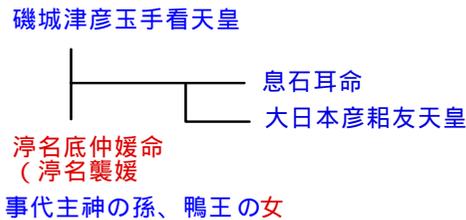


延喜神名式にみえる奈良県磯城郡三輪町金屋にあった城上郡志貴御県坐神社の鎮座地付近を中心として、後の城上郡・城下郡（現在の磯城郡）に勢力を持った古代の豪族川派は和名抄に河内国若江郡川俣郷（大阪府東大阪市川俣）檀原市雲梯町の河俣神社大日諸の女、糸織媛との婚姻により、大日諸は、春日縣主の租となった。神八井命帝宮より降り、当国春日県に居り大宅を造営し国政を塩梅す。ここに皇祖天神を祭礼し、幣帛を陳し祝詞を啓す。県主遠祖大日諸を祀となし、奉仕せしむるなり

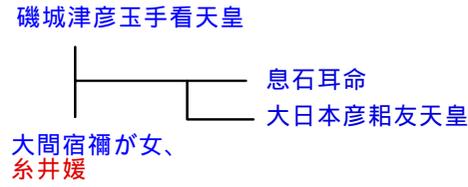
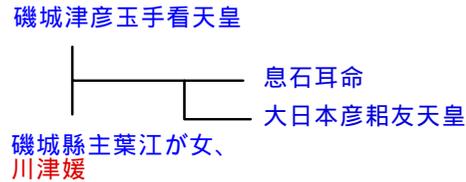
神沼河耳尊 古事記の系図



磯城津彦玉手看天皇 書紀の系図 本文

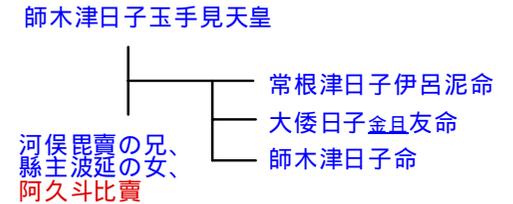


磯城津彦玉手看天皇 書紀の系図 一書

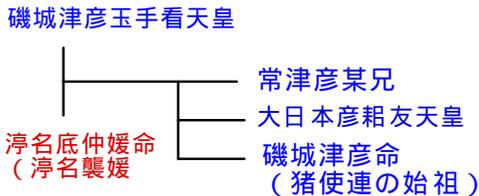


大間宿禰が女、糸井媛は注に春日縣主大日諸の女、糸織媛の兄弟

師木津日子玉手見尊 古事記の系図



磯城津彦玉手看天皇 書紀の系図 一云



片鹽、浮孔宮
大和志は葛下郡三倉堂村（大和高田市三倉堂）
地名辞典は河内国大県郡（堅上・堅下郡）
姓氏録、河内神別に浮穴直あり。

磐余之地、舊の名は片居。亦、片立と曰ふ。立誥之處、是を猛田と謂ふ。城を作りし處、號けて城田と曰ふ。又、賊衆、戦ひ死せて僵せる屍、臂を枕きし處を呼びて頬枕田と爲す。

二はしらの王（みこ）坐しましき。
一はしらの子・孫（うまこ）は【伊賀の須知（すち）の稻置（いなき）、那婆理（なばり）の稻置、三野（みの）の稻置の祖】。
一はしらの子、和知都美（わちつみ）の命は淡道（あわじ）の御井（みい）の宮に坐しましき。故、此の王（みこ）に二はしらの女（むすめ）有り。兄（え）の名は蠅伊呂泥（はえいろね）、またの名は意富夜麻登久邇阿禮比賣（おおやまとくにあれひめ）の命。弟（おと）の名は蠅伊呂杼（はえいろど）